

発表者 中嶋 香

テーマ 「一人ひとりの多様性を認め合い、個性を生かす教育」

はじめまして。中嶋香と申します。

これより6分間のお時間をいただき、私の意見発表をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、多様性を認めると主張することをやめませんか。なぜなら、これは今や当たり前のことだからです。パラダイムシフト、今までの考え方や価値観が劇的に変わること、パラダイムチェンジだからです。「みんなちがって、みんないい」。金子みすゞさんの有名な詩の一節です。2014年に日本公開された「アナと雪の女王」では、ありのままに生きること、ありのままの私でいることがメインテーマでもありました。

例えば、点字ブロックや公共機関などにおける多言語での音声アナウンスに特別感を感じますか。それらは今ではほとんどの方の日常を邪魔することなく生活の一部となり、溶け込んでいます。

しかし、かつてこれは健常者のためのものではありませんでした。今でも多様性を認めてやっているものだと感じますか。気に留めていない、感じないと答える方が大半のことでしょう。なぜなら、それらが日常に浸透しているからです。もちろん点字ブロックや多言語の音声案内やバリアフリーが当たり前になるまでには時間を要しました。

私は人の個性、特性に対しても同じことが言えると思います。多様性を認めることではなく、私たちの認識を変えることが今、求められるのです。人は誰しも無自覚の差別や偏見や基準を持っています。無自覚の決めつけや思い込み、基準はいつしか価値観となり、それらは差別やいじめにもつながります。

私たちが何気なく使っている言葉や発信も時に差別や偏見だと指摘されることで反発が起こってしまうこともあります。なので、齟齬や争いを生まないためにも、最小限にするためにも、この中野区では最先端の精神教育にアプローチする機関を設けるべきだと思います。そこでの学びや気づきを得ることは重要です。

ふだん、大人から子どもに何気なく日常に発信している言葉やしつけが、時に個性を育む思考を奪ってしまいます。子ども社会では仲間外れとして現れたりもします。子どもはスポンジのように吸収しようとする意思が強く、大人から受けた言葉やイメージを受けとってしまうからです。

大人が無意識のうちに子どもの思考を決定づけてしまうケースもあります。そこで、私が教育委員会の皆様のお力を借りて取り組みたいのは、子どもと一緒に学べる大人向けの教育、ワークショップです。中野区に提案する

内容は、教育委員会が主催する正しい知識と学びからの気づきが分かるワークショップ、コミュニティを作ることです。

LGBTsなど現存するあらゆる多様性に対する理解を深め、正しい知識と認識を持つためです。また、生きにくい現状やどこかで居場所がない方々が分かち合い、互いの価値観や自己肯定感や安心感を得られるようなコミュニティの設立を目指したく思います。

もちろんこれからの諸問題について考えたことのない方も参加して、理解や認知をしてもらえるような初級クラスのようなワークショップの開催もします。また、既に取り組んでいる方々、今、まさに悩みに直面する方々には、例えば区による中野坂上翔和学園など、様々なそれぞれに精通している機関や専門家の方たちと手を取り合い、交流の場や勉強会などを設け、開かれた場にしようと思います。

中野区の教育ビジョンの核となる一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り開く力を育む。私たち大人がその手本となれるように、人間力の向上に努め、その個性や特性が花開くように、サポートができるように願ってなりません。

最後に、中野区の教育委員会は、学校で学べる学習科目、リベラルアーツや教育サポートはもとより、環境整備、そういった部分と同時に、情操教育部分を担う最先端の精神教育に取り組む区としての教育委員会、中野モデル、中野ルールのパブリックイメージを上げるよう、教育の広報として今までの経験を生かしてメディア掲載や取材等にご尽力したく存じます。

ご静聴いただき、ありがとうございました。

区長 ありがとうございます。多様性を認め合うではなくて、多様性をどうするという、その言葉がちょっとつかみ取れなかったのですけれども、どう考えていらっしゃるのですか。

中嶋 はい。多様性を認めるという言葉と多様性を認め合うというのは、確かにそれがもう今や前提となって、その一人ひとりの個性をもっと深く理解すると捉えていきたいなと思っております。今や先ほど申し上げました新しい価値観、パラダイムシフト、パラダイムチェンジでありまして、今までが既存の状態から非常にこちらの多様性について皆様に関心を持ち、今や認識を持つことが当たり前となってきた今、それを正しく理解し、深く浸透されているか、もちろん認め合いということが前提なのですけれども、それを主張するというのではなくて、それが当たり前となっていけるようにサポートしていきたいという意味で申し上げます。

た。

区 長 なるほど、分かりました。あと、大人向けのワークショップというのが出てきましたけれども、これは教育委員会としてこういうものをやったらどうかというお話ですか。

中 嶋 さようございます。これは子どもと一緒に学べる、子どもも参加できる大人向けの教育ということでございます。もちろんこれは子どもだけでも参加できます。なぜなら、子どもと大人と一緒に学ぶことによって、その大人の今までの価値観というものを子どもがこういった理解が得られなかった中で、このように理解してもらえる大人、大人も学べるということを子ども自体もその姿勢を見られるということはとても大事なことではないかと思っています。

区 長 子どもの教育というのは大人からやっていかないと、パラダイムチェンジもなかなかできないなということですね。

中 嶋 さようございます。

区 長 分かりました。ありがとうございました。